

昭和医科大学烏山病院だより

あおぞら

〔発行責任者〕 病 院 長 真 田 建 史

〔編集責任者〕 広報委員長 真田 建史

〔住所〕 〒157-8577 東京都世田谷区北烏山6-11-11

〔電話〕 03-3300-5231(代表)

第 2 2 4 号

[2 0 2 6 年 4 月 1 日]

新年度の挨拶

～創立 100 周年ならびに昭和医科大学として 75 周年を迎えるにあたり～

病院長 真田 建史

2026 年（令和 8 年）、新年度の始まりにあたり、ご挨拶させていただきます。日頃より当院の診療ならびに運営に対し、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて今年度は、5 月 2 日に当院の起源である「烏山病院」創立 100 周年、さらに 7 月 1 日には昭和医科大学烏山病院として創立 75 周年という、大きな節目の年を迎えます。

1926 年（大正 15 年）の創立以来、当院は大正、昭和、平成、令和と時代を重ねるなかで、歴代院長をはじめとする多くの先達により、精神科医療の発展に確かな足跡を刻んでまいりました。第 3 代西尾友三郎院長は、創立 10 周年記念誌（1962 年 12 月 7 日発行）の巻頭において、「自分が病気になっても安心して入院出来るような病院であり、誇るべき職場であるように普段の努力を積み重ねる」と述べられています。この思いは 60 年以上経ったいまも、私たちの診療の根底にあるものと考えます。

「烏山病院」の 100 年の歩みは、決して平坦なものではありませんでした。第二次世界大戦後の患者数減少、外地引揚者の受け入れ、昭和医科大学への寄贈、患者の社会復帰支援の促進、ライシャワー米
国大使刺傷事件後の精神衛生法改正をめぐる社会的課題への対応、病院紛争、附属高等看護学校の設立、社会復帰後援会の発足、デイケアセンターの開設、共同住宅の開設など、最初の 50 年はまさに激動の時代でありました。その後、第 7 代加藤進昌院長が就任されて以降、私たちは地域移行支援、精神科救急（いわゆるスーパー救急）医療、成人期発達障害、アディクション（依存症）医療と、現代社会が抱える多様なニーズに応えるべく取り組みを進めております。

この記念すべき年を単なる通過点とするのではなく、過去を振り返り、次なる 100 年に向けた新たな一歩としたいと思います。患者やその家族、さらには社会の声に職員一同、真摯に向き合い、開院以来の理念である「パイオニア精神を持ち、広く社会に開かれた病院」を体現していく所存です。そのためにも、「自分が病気になっても安心して入院出来る病院であるか」、「誇るべき職場であるか」を職員ひとりひとりに問い続けたいと思います。今年度もよろしくお願いたします。



着任のご挨拶

事務長 田邊 聡

この度、令和7年12月1日付で事務長に着任いたしました田邊 聡と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和8年度は当院にとって誠に意義深い歴史の転換点となります。大正15年（1926年）の設立から数えて100周年、そして昭和医科大学の附属病院となってから75周年という、記念の年を迎えました。昨年の「昭和医科大学」への校名変更という新たな門出に続き、このような重厚な歴史を刻んできた病院の運営を担うことに、深い誇りと共に職責の重さを改めて痛感しております。



また、2年後の2028年には、昭和医科大学が創立100周年という大きな節目を迎えます。この一世紀の間、当院が精神科医療の拠点として歩み続けることができたのは、偏に患者さんやご家族、そして地域の皆様の温かいご理解とご支援があったからに他なりません。

事務部門といたしましては、この伝統ある歴史を次世代へと繋ぐべく、安心・安全な医療環境の整備に尽力してまいります。

大学の建学の精神を胸に、患者さんがより快適に受診でき、地域に根ざした「心の拠り所」となれるよう、烏山病院スタッフ一同職務に邁進してまいります。よろしくようお願い申し上げます。

C3 病棟師長着任のご挨拶

C3 病棟 看護師長 與那覇 香苗

この度、3月1日付で昭和医科大学病院より異動して参りました看護師長の與那覇香苗と申します。

烏山という地は、今はなき烏山看護専門学校時代を思い出します。この地で27年前学生として看護を学び、その後旗の台にある昭和医科大学病院へ入職いたしました。その過程の中、東病院に精神科病棟があった時代、約6年間精神科病棟で勤務しておりました。よって、この度烏山病院へ異動と聞いた際は、何か深い縁を感じました。久しぶりに千歳烏山駅に降り立ち「懐かしい」と「変わったな」が同時に押し寄せてきて感慨深い思いでした。

そんな想いを抱え着任したのが、C3病棟でありました。C3病棟は高齢者・認知症病棟であり、患者さんにとって単に病気を治す場所であるだけでなく、これまでの人生を振り返り、これからの生活をどう彩るかを考える大切な場所でもあると考えております。

私が看護を行う上で大切にしているのは「対話」「尊厳」「笑顔」です。日々の何気ない会話の中にこそ、その方のこだわりや、大切にされている想いが隠れています。それらを丁寧に汲み取るために、相手を思いやり笑顔で接しながら、多職種と連携し、その人らしい生活を支えるチーム作りを目指してまいります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

ゴールデンウィークの診療体制について

当院のゴールデンウィークの診療体制については以下の通りとなっております。
あらかじめご確認の程お願いいたします。

対象日	診療体制
令和8年5月2日(土)	8:30~17:00
令和8年5月6日(水)	

定年退職者 感謝状贈呈

令和8年3月31日をもって、本学を定年退職される島田ひかる氏、濱上誠子氏、藤澤尚子氏、山菅聡美氏、栗原利和氏の5名に本学より、感謝状が贈られました。

その感謝状を真田病院長から退職者へ贈呈をさせていただきました。
皆様、ありがとうございました。そして、お疲れ様でした。



左から山菅氏、島田氏、藤澤氏、真田病院長
※濱上氏、栗原氏のご都合付かず、後日贈呈しました。

おつかれ
さまでした!



デイケア活動

M.S さん

木曜日のプログラムのサズデイについて報告します。

デイケアではASDグループやADHDグループなどの発達障害専門プログラムを複数行っていて、サズデイもその中のひとつです。

毎週木曜日の午前にデイルームで行っています。

プログラムの内容は、まず一週間の出来事や印象に残ったことについて1分間でスピーチを行い、次に気持ちカード（色々なイラストと気持ちが書かれたカード）を用いてプログラム当日の調子・感情（体調やメンタル）の確認を行っています。その後、担当スタッフを含めた参加者全員で、その日のテーマを決めてプログラムを進行しています。

最近のプログラムでは気持ちカードを作り直しました。気持ちカードは以前からサズデイで使っていたのですが、サズデイの参加者が増えて数が足りなくなってしまったので、その日の参加者全員で作直すことになりました。11個のキーワードに新しいキーワードを3個（モヤモヤ、ワクワク、イライラ）を加えた計14枚のカードを作成し、各自で絵と文字を描いてラミネートしました。

私はこのプログラムに参加して、周りより以前よりもコミュニケーションを取ることが多くなりました。これからも自分のペースで周りの皆とコミュニケーションを取っていきたいです。（M.S）



《 2月 》	入院(前月)	外来(前月)
◆延患者数	7,961(8,762)	5,926(6,249)
◇一日平均患者数	284.3(282.6)	269.4(271.7)
◆診療実日数	28(31)	22(23)

総合サポートセンター ～受診・入院のご相談～

診察時間：月曜日～土曜日 8時30分～17時

電話：月曜日～土曜日 03-3300-5231

◎初診受付：月曜日～土曜日 8時30分～14時

◎休診日：日曜日・本学創立記念日・年末年始

広報委員会では、皆様のご意見ご感想をお待ちしております。連絡先は k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp となります。こちら鳥山病院のホームページのQRコードとなります。ぜひご覧ください。



鳥山病院精神医学講座Instagramが開設されました。

随時情報を発信していきますので、どうぞよろしくお願いたします。



【編集後記】

新年度を迎え、生活にさまざまな変化が訪れる時期となりました。鳥山病院でも職員の異動があり、院内の顔ぶれにも少し変化がありました。新しく加わった職員と共に、これからも地域の皆様に寄り添う医療を大切にしていきたいと思えます。

4月は新しい一歩を踏み出す方も多い一方で、慣れない環境による疲れを感じることもあります。体調やこころのバランスが崩れそうなときは無理をせず、少し立ち止まる時間も大切にしながら穏やかな春をお過ごしください。今後も本誌を通して、当院の取り組みの様子を身近に感じていただければ幸いです。

広報委員 佐藤